所属・氏名（医療栄養学部　医療栄養学科　氏名：旭　久美子）

| 著書、学術論文等の名称 | | 単著共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概　　要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | （学術論文）<br>職域集団の脂質異常症における肥満指標（BMI と腹囲）の妥当性の検討（筆頭論文） | 共著 | 2018 年 3 月 16 日受理 | 日本食生活学会 | 職域集団における脂質指標と BMI・腹囲の関連を評価し、脂質異常症判定における BMI・腹囲の妥当性を検討した。本研究集団では、BMI・腹囲は高中性脂肪血症および低 HDL-コレステロール血症の合併と関連し、カットオフ値は男女ともに BMI は 23、腹囲は 80cm を示した。<br>共著者：旭久美子，吉田礼子，石井広二，荒井勝己，増野弥生，斎藤陽子，勝川史憲 |
| 2 | （学術論文）<br>High Prevalence of General and Abdominal Obesity and Relationship of Obesity with Diabetes Mellitus in Patients with Psychiatric Disorders<br>（筆頭論文） | 共著 | 2014 年 12 月 | Journal of Diabetes Obesity 1 (2) 1-6 | 精神疾患患者について、上半身肥満と BMI 肥満の生活習慣病の有病率について検討した。特に糖尿域の患者を対象とし、生活習慣病関連指標への肥満の種類の影響について多重ロジスティック解析を用いて検討を行い、共に糖尿病と有意な相関を示した。この結果は両肥満の糖尿病発症リスクが同程度であることを示した。<br>共著者：Kumiko Asahi, Shuji Inoue et al. |
| 3 | （学術論文）<br>生活習慣病ハイリスク肥満対象者における健康管理指導による体重減少の<br>生活習慣病関連指標の<br>改善効果<br>（筆頭論文） | 共著 | 2014 年 8 月 | 日本臨床生理学会雑誌<br>44 (3) 137-147 | 肥満症と生活習慣病関連指標の異常所見を持つハイリスク者を対象とし、3 か月間の健康管理指導による改善効果の検討を行った。指導群の変化量は、体重-3.0ｋｇ、BMI-1.4kg/m2 で生活習慣病関連指標が有意な低下が認められた。また 5%減量で異常値の全ての指標が 50%以上改善することが明らかとなった。<br>共著者：旭久美子,井上修二　他 |
| 4 | （学術論文）<br>S 市住民健診結果における BMI に基づく肥満および上半身肥肥満と、高血圧症、脂質異常症、糖尿病のリスクとの関連 | 共著 | 2013 年 2 月 | 日本体質医学会雑誌 75(1)20-36 | 一般成人の BMI 判定による肥満と上半身肥満の頻度は、男性が女性より高く、高血圧・脂質異常症が合併しやすいことが明らかになった。特に女性は両肥満で生活習慣病のリスクが高くなった。さらに上半身肥満の現判定基準では特に女性の生活習慣病のリスクを見逃してしまう懸念が示唆された。<br>共著者：竹内真理,旭久美子,井上修二　他 |
| 5 | （著書）<br>アメリカ人のための食事ガイドライン 2010 ーMyPyramid から MyPlate へー | 共著 | 2011 年 10 月 | 医歯薬出版<br>臨床栄養<br>Vol.119 N0.5 | アメリカ保健社会福祉省と農務省が 2011 年 6 月に公表した食事ガイドラインの 7 版について解説した。背景、概要、付表に示された重要推奨事項、その解説や資料について紹介した。<br>共著：田中平三,原島恵美子,松下由実,<br>旭久美子 |